

【解答例】

I

問一 (a) || 至便 (b) || 痛感 (c) || 体得

(d) || 権化 (e) || 不漸

問二 精神医学は医学の一分野として確立しているとはいえ、再入院したり退院できない患者を見るにつけ、治療という医学の目的において十分な役割を担いきれていないということ。(80字)

問三 疑い続けることで対象の本質に迫れるから。(20字)

問四 論文の著者の経歴や業績から理論の意義や信憑性を判断するのではなく、論文が提唱している、不確定な状況を受け入れる実践を試みるの方が重要だと思いたったから。(79字)

問五 ヒトの脳には、対象に興味づけをして理解したつもりになることで不安を避けようとする傾向があり、実社会では迅速な問題処理能力が重んじられる風潮もあるため、不確かな状態を保持し続けることは難しい。しかし、物事を簡単に理解できるものとして処理することは、理解を低い次元でとどめてしまうことになる。対象の本質に深く迫るためには、懐疑の中にい続ける能力が必要なのである。(179字)

II

問一 (a) || 駆逐 (b) || 喚起 (c) || 擁護

(d) || 没頭 (e) || 曖昧

問二 直接民主制も代表制も、有権者の意志を重視する点で一致しているが、前者が民意を政治に直接反映させるのに対し、後者は民意を有権者から切り離して判断の領域を重視する。(80字)

問三 民衆の意志を直に示すことを重視する直接制の考えを保持しつつ、民意を民衆から切り離し、総合的な視点から客観的な判断を下して民意の衝突を避ける代表制の立場をとることで、両者は補完しあう関係性となるから。(99字)

問四 代表制の非民主的性質とは、代表が有権者の民意をそのまま政治に反映させるのではなく、有権者から民意を強制的に切り離すことであり、それによって代表は判断の領域に踏み込める。変化に乏しく固定化しやすい意志とは異なり、判断は議論や行動のなかで変化することを重視するものであるため、民意が複雑に細分化し流動的で組織化しにくい、現代の民主主義を発展させる働きとなること。(179字)

問一 ㊦

- (a) 何となく気詰まりで
- (b) 何となくめもないこと
- (c) 何となくまらないこと
- (d) 何となくやむをえず

問二 漫然と過ごし、わずかな知人との交流のみで心慰められていたのに、生き甲斐もなく将来を不安に思う心情。(49字)

問三 出仕以前は自宅で自分だけの狭い世界で過ごしていたが、出仕すると、他人とのやりとりの中で、それまでは受け取らずにすんでいた恥辱やひどい扱いに直面して、そのつらさに耐えきれない思いになっているから。(95字)

問四 (ア) 心の通じた人で交流を続けていた人なども、出仕した私をどれほど厚顔で浅はかな女よと軽蔑しているだろう

- (イ) 奥ゆかしいと思われた人は、出仕などすると何事もいい加減で手紙なども人目にさらしてしまうだろうと、疑ってしまいそうなので、

問五 水鳥が水の上で浮き寝をするように、あなたと中宮の御前で一緒に寝ていたことばかりが恋しく思い出されて、ひとり寝の寒さは、鴨の上毛に置く霜の冷たさにも劣ることはないでしょう。